
朝潮と温泉旅行
Kantai Collection FanBook
Presented By NAGATSUKI_INN
R18
ADULT ONLY
18歳未満の
購入・閲覧禁止

朝潮と温泉旅行

p05～11...17:00 宿泊宿後にて

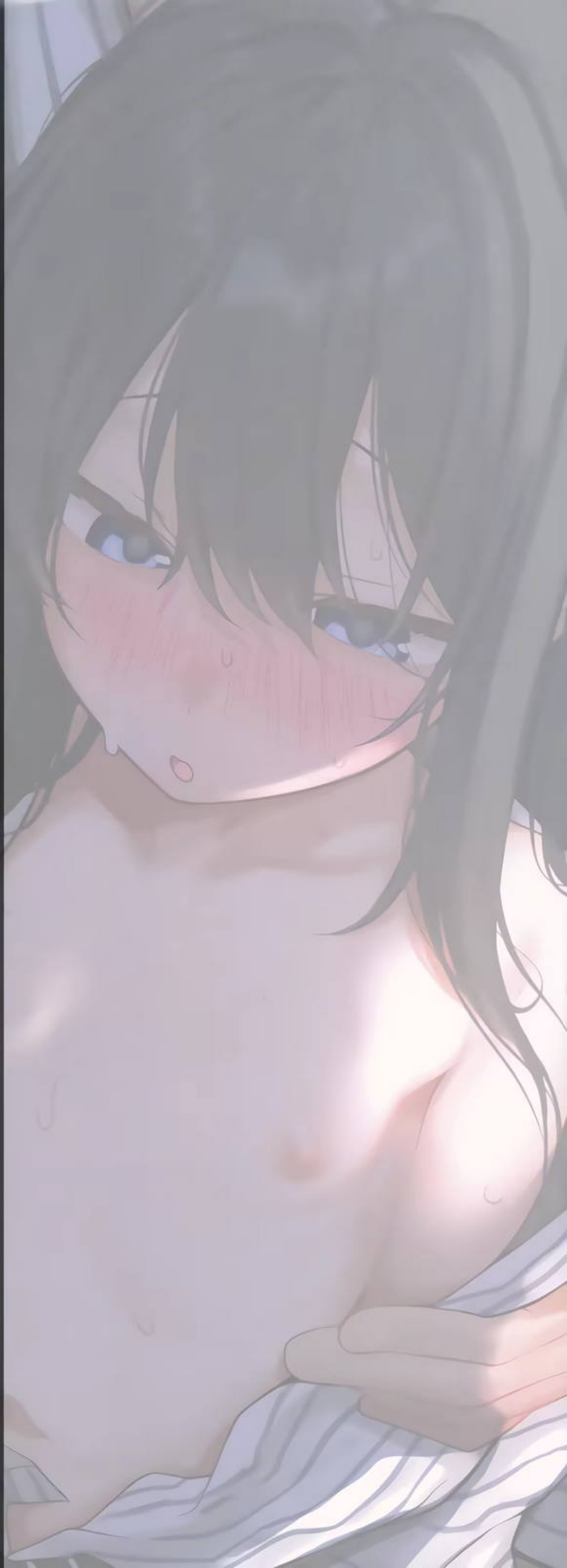
p12～19...20:00 家族風呂にて

p20～22...22:00 脱衣所にて

p23～29...23:00 寝室にて

p30～37...05:00 露天風呂にて

・本書は非公式のファンブックです。
・本書には性表現が含まれています。
未成年の購入・閲覧を禁じます。
・無断転載・複製
WEB上へのアップロードを禁じます。





ヒトナナマルマル

夕暮れ刻、小ぢんまりとした古めかしい和風建築に司令官と朝潮は足を運んでいた。
普段なら仲睦まじい会話が聞こえるはずなのだが、ここに来るまで碌な会話がなかった。

目的はただ1つ。
子作りをするためにここまで来たのだ。

宿泊部屋に入るまでの間も二人の会話はおぼつかなく
これから行われる営みのことで頭がいっぱいになっていた。

部屋に入るなり司令官はここまで来るまでに溜め込んできた獣欲を目の前の未発達な雌にぶつける。
あどけない表情、ほんのり火照った肌にしっとりと張りつく髪の毛。幼さの残る甘ったるい香り。
朝潮から発せられる全てが…

二人の理性の糸を解れさせるのに十分すぎた。




「朝潮…あさ、しおっ…っ！」
(司令官の…熱いのがお尻に当たって…もうこんなに…♡)
「はい…♡朝潮はどこにも行きませんよ…♡」


「っく、ぅあぁっ……！っあさしお…それ…やば…」
(さきっぽびくびくしてきた…司令官…たっぷり射精す準備してる…♡)
「はぷっ♡…ちぱ♡ちぱ♡…ぢゅるるるうぅ..♡」


「ふーっ……ふーーっ……」
「司令官……っ。せめて、お布団に……」


（すぐ出す、出す出す出す……っ膣内に…ぜんぶっ…）
（司令官っ♡私を、求めてくださってる……っ♡）
「あぅ、あ、ふぁ♡ぁ、ぁぁ……っっ♡♡」


「あさしお…っ…」
（司令官のおちんちん…ゆっくり抜く時も…♡
びゅくびゅくって…跳ねてる…♡）



フタマルマルマル

浴衣に着替え、混浴の家族風呂に二人がやってきた頃にはすっかり陽が落ちてしまっていた。

先ほどまで汗だくになりながらまぐわい続けた身体を洗うために広い洗い場へやってきた朝潮は
少しばかり緊張がほぐれたせいか、普段見ない光景に胸を躍らせていた。

どちらかが先の営みを思い出し、この旅行の目的を鮮明に思い出すまでは…。


「司令官!見てください!脱衣場の雰囲気からして鎮守府のものとは違いますね!」


「お…おっ…あさ、しお…っ」
(司令官…とっても気持ちよさそうな顔をしてらっしゃる…♡)
「司令官、朝潮のお胸…ご満足いただけたでしょうか?♡」


「司令官、それっ♡こえ、声……でちゃいます……っ♡」
「いいよ。誰も来ないからいっぱい出しても。」
「んっ♡んっ♡んっ♡ゃ……ぁ♡おっぱいばっかり、洗われると……っ♡……っ♡」


（朝潮……あさしお……っ）
「司令官っ♡もっと奥までどうぞ……っ♡」


「あ、んぅ♡司令官……っ♡」
「朝潮のなか、いい……っ」
「はぁ……ぷ♡ 熱い、熱いです……司令官……っ♡」


（また、私の中で大きくなさって……っ♡ また、私の中で、熱いのをお漏らしになられて……っっ♡♡）
「はーーーっ…♡はーーっ……♡」



フタフタマルマル

絶頂から戻ってきた朝潮と風呂から上がり
汗を流す間も二人の熱は冷めることを知らなかった。

身体を拭う間もキスと愛撫を止めることができなかった。
その度に朝潮が覗かせる煽情的な瞳や素振り、タオル越しに献身的に陰茎を刺激するものだから
司令官の欲望は沸きっぱなしになってしまう。

身体をあらかた拭いた後、朝潮の軽い体を持ち上げ
司令官はそのまま脱衣所で子作りの続きを始めてしまう。




「上手、朝潮……っ。上手……っ」
（このお種で、私に赤ちゃんを……）
「……はぷっ♡れぇろ……お♡」


「朝潮…そのままっ…おさえてて……ぉ…っ」
（司令官のおちんちん…脈打つたびに…精液の塊が送り込まれるの…わかる…♡）
「んっ♡ んぅう♡……っっ……♡♡」



フタサンマルマル

部屋に戻る間も司令官と朝潮は言葉を交わさなかった。

月明かりのみがだけが差し込む部屋にひとつだけ敷かれた布団の上
浴衣の帯に手をかけお互いに脱がし合っていく。

脱ぎながら口づけを交わし

互いの下着を脱がし合い

白い吐息がかかるほどの距離で見つめ合い

考えることは

相手と繁殖がしたいだけ。


「朝潮……」
「……♡」


「しれいかんっ♡しれいかんっっ♡♡ はへ、はふ……っ♡♡しれい、かん……っ♡♡」
「朝潮…朝潮……っ」
「 朝潮の、"ここ"へ……♡赤ちゃん、ください……っっ♡♡」
「あさ…しお……っ!!」


「あっ♡司令官っ♡♡ひゃっ♡あっ♡射精しながらっ…っ♡あ"っ♡♡」
「ぉ…あさしお…っ…挙めっ…はらめっ…っ」
「～～～っっっ♡♡♡っ♡お"っ♡ぉ"……ぉ♡♡」


「う……ぁ……、朝潮……っ。締まる、中、すご……っ」
「お♡お〝♡おお〝ぉおお……っっっ♡♡♡」


「ふぅ……ぉ、あさしお……っ」
「んぅ…はもっ♡…ちゅぅ…♡ちぅ..♡」
「ふぅ……♡ ふぅ……♡」



マルゴーマルマル

夜通しまぐわい続け、そのまま朝になってしまった司令官と朝潮は
おぼつかない足取りで露天風呂へゆっくりと浸かりにきた。

大浴場には二人以外の人影はもちろん見当たらず
司令官の体に背中を預け、疲労が湯船に溶けて広がる感覚を味わいながら
戯れ合うような応酬を繰り返していった。

繰り返してるうちに昨晩の性に乱れた表情と、湯船で火照る表情の境界線が曖昧になる。

陰茎が再び熱を取り戻し、目の前の快楽を求めてとぐろを巻いてしまう。




「……ここ…お外ですけど……シたいですか……？」


「朝、潮……っ」
(昨晩あんなにたくさんシてもらったのに…
もうこんなにおおきく…♡)


（朝潮でまた、精液搾られる……っ。金玉が働く……っ）
「あ♡ん〝っ♡ イく……イく……っっ♡♡」


「朝潮、朝潮……クる……っ！」
「しれいかん♡しれいかんっあ゛っあ゛っ♡おくっ♡
奥でいっぱい、しゃせいしてください♡♡おく、おく…ぅ♡♡♡♡」


「司令官っ…♡そんなに激しくされると…っ
せっかくの精子が溢れちゃいます…っ♡」


「朝潮…まだ…射精…とまりそうにない…」
「ぷ、あ……っ♡ 司令官の……熱い……っ♡いっぱい……っ♡」

あとがき

次こそは必ず…

朝潮と温泉旅行

コミックマーケット108
発行日2026/8/15
発行 NAGATSUKI
連絡先 soureigaisuto@gmail.com

印刷 株式会社栄光様

本誌は成人向けです。18歳未満の閲覧、購入を禁じます。
転載・複製・ネットのアップロードを禁じます。

NAGATSUKI

Comic Market 108
Kantai Collection Illustration Fan Book